E２本日の試合結果一覧

開催日 **2021/01/24**

2020-21 V.LEAGUE DIVISION1 MEN

試合番号	197	試合会場	松本市総合体育館	観客数	420
開始時間	14:00	終了時間	16:31	試合時間	02:31
主審	中山　健	副審	澤　達大		

VC長野トライデンツ	通算	3 勝 15 敗 ポイント： 11				FC東京	通算	6 勝 12 敗 ポイント： 20
3	25	第1セット	22	2				
	15	第２セット	25					
	15	第３セット	25					
	34	第４セット	32					
	15	第５セット	13					

監督コメント（VC長野トライデンツ）

昨日のゲームからFC東京はしっかりと対策しており、気迫がすごく、とても苦しいゲームになりました。
それでも選手たちは下を向くことなく、やってきた事を信じて戦ってくれました。V1に昇格して初めての連勝はとても嬉しいです。この勝利を来週のホームゲームに繋げてしっかりと戦っていきたいと思います。
本日も熱い応援本当にありがとうございました。

監督コメント（FC東京）

第４セット目を取り切れなかったことが、反省点である。
しかし、普段なかなか出番のない山田、黒田が素晴らしい活躍をして、チームに力を与えてくれた。
残りレギュラーラウンド半分でありますが、順位を上げれるようにしっかりと戦ってきます。
この２日間、運営面でも素晴らしい環境の中で試合をさせていただき、ありがとうございました。

要約レポート

ホームでDIVISION1初の連勝を狙う９位のVC長野トライデンツと、連敗を避け上位を狙いたい８位FC東京との対戦。
第１セット、序盤から競った展開になるが、終盤サーブミスが続いたFC東京に対し、VC長野は着実に得点を重ね25-22でこのセットを先取した。
第２セット、栗山の４連続得点などで６-０とリードしたFC東京が優位に試合を進める。VC長野も途中出場の池田(幸)が２本のブロックを決めるも、そのままFC東京が要所を締め、25-15でこのセットを奪った。
第３セット、３本のサービスエースなどで優位に試合を進めるFC東京に対し、VC長野もメンバーチェンジなどで流れを変えようとするが、終盤FC東京・山田、黒田、栗山の活躍で７連続得点をあげたFC東京がセットを連取した。
第４セット、サイド攻撃を軸に組み立てたVC長野に対し、FC東京は栗山のクイックなどで優位に試合を進める。粘るVC長野は笠利のスパイクとリヴァンのブロックでデュースに持ち込んだ。お互い譲らず32-32まで激闘を繰り広げるが、最後はVC長野はリヴァン、戸嵜が連続スパイクを決め、34-32でこのセットを奪い、勝利に望みをつないだ。
第５セット、序盤は第４セットの勢いのままVC長野のリズムで試合が進む。FC東京もサイドからの攻撃を中心にも巻き返し12-12に追いつく。最後はVC長野・笠利のスパイクが決まり３-２で嬉しい連勝を飾った。

試合番号	198	試合会場	パナソニックアリーナ	観客数	0
開始時間	14:05	終了時間	15:55	試合時間	01:50
主審	山本　和良	副審	江下　毅		

パナソニックパンサーズ	通算	15 勝 3 敗 ポイント： 43				JTサンダーズ広島	通算	8 勝 10 敗 ポイント： 27
3	26	第１セット	24	1				
	25	第２セット	23					
	19	第３セット	25					
	25	第４セット	20					
		第５セット						

監督コメント（パナソニックパンサーズ）

素晴らしい試合でした。JT広島は昨日よりいいプレーをしており、今日の試合は接戦になりましたが、第１・２セットをとった事が大きかった。
新選手と大竹選手の活躍があり勝利につながったと思います。来週もタフな試合になるのでご声援よろしくお願い致します。

監督コメント（JTサンダーズ広島）

今日の試合では、次に繋がるプレーが少し出来たように思います。
この状況の中、バレーボールが出来る事を感謝して、次の試合に臨みたいと思います。
リモートマッチではありますがご声援ありがとうございました。

要約レポート

昨日に続き、パナソニックパンサーズがJTサンダーズ広島を迎えたホームゲーム２戦目。
第１セット、終盤までシーソーゲームが続いたが、パナソニックは久原、クビアクのスパイクが要所で決まりセットを先取する。
第２セット、JT広島はエドガーにボールを集め、点差を広げるも、パナソニックは途中交代で入った大竹のスパイクや山内の速攻で徐々に点差を縮めると最後は久原がブロックを決め、セットを連取する。
第３セット、中盤まではパナソニックが一歩リードする展開であったが、JT広島は途中交代で入った新井が渾身のスパイクを決めると小野寺のブロック、陳のサービスエースが決まり、終盤で８連続ポイントと一気に突き放し、セットを取り返す。
第４セット、パナソニックはセッター深津の多彩なトスワークで攻撃を仕掛け、JT広島の勢いを止めると、終盤は久原が速いバックアタックを次々と決め、セットを取り、ホームゲーム２連勝を果たした。

試合番号	199	試合会場	このはなアリーナ（草薙総合運動場体育館）	観客数	750
開始時間	12:00	終了時間	13:26	試合時間	01:26
主審	村中　伸	副審	林　淳一		

東レアローズ	通算	8 勝 8 敗 ポイント： 22				サントリーサンバーズ	通算	14 勝 2 敗 ポイント： 40
0	21	第１セット	25	3				
	24	第２セット	26					
	21	第３セット	25					
		第４セット						
		第５セット						

監督コメント（東レアローズ）

ホームゲーム２連敗と悔しい結果となってしまいました。
柳田選手、藤中選手の両レフトスパイカーをディフェンスできなかったことと、チームのコンビの精度が低くなってしまったことが敗因だと思います。
ただし、米山、富松が崩れかけたチームを良く立て直してくれたと思います。
また来週に向けて準備して臨みたい。
２日間、たくさんの応援ありがとうございました。

監督コメント（サントリーサンバーズ）

本日もたくさんご声援ありがとうございました。
スコアは３－０でしたが、内容は非常にハードでしたし、難しい試合だったと思います。試合に勝つことはできましたが、今後に向けての課題や修正点が多々見つかったと思います。
東レは非常に粘り強く、様々な選手が活躍していたと思います。今後もリーグ終盤になるにつれ、ハードな試合が増えてくると思いますが、一つ一つ積み上げながら成長していきたいと思います。
本日も応援してくださったファンの皆様、また開催にご尽力いただいた皆様に感謝したいと思います。ありがとうございます。引き続きサンバーズに熱いご声援よろしくお願いします。

要約レポート

前日の勝利で勢いに乗るサントリーサンバーズと、ホームゲームで勝利したい東レアローズとの対戦は、第１セット、サントリー塩田、加藤のブロックと安定した守備で序盤から終始一歩リードし、そのまま25−21でサントリーがこのセットを先取した。
第２セット、サントリー藤中の連続ブロックで東レの攻撃を封じつつ、リードを広げるが、中盤、このセットからスターティングメンバーで出場した東レ富松がサントリー・ムセルスキーをブロックし、クイック攻撃を決めてムードを変える。終盤、東レ富田の連続サービスエースやスパイクで同点に追いつき、一進一退の攻防が続くが、守備から攻撃につなげたサントリーが26−24でこのセットを連取した。
第３セット、中盤、サントリーはムセルスキーのスパイクと大宅のブロックで一歩リードを奪い、一矢報いたい東レは李のブロックやパダルのスパイクで反撃するものの、最後はサントリーが25−21でこのセットを制し、リーグ再開後から４連勝となった。

試合番号	200	試合会場	このはなアリーナ（草薙総合運動場体育館）	観客数	450
開始時間	15:00	終了時間	17:09	試合時間	02:09
主審	原　啓之	副審	中西　幸治		

堺ブレイザーズ	通算	10 勝 8 敗 ポイント： 29				大分三好ヴァイセアドラー	通算	0 勝 18 敗 ポイント： 4
3	23	第１セット	25	2				
	25	第２セット	20					
	25	第３セット	14					
	21	第４セット	25					
	15	第５セット	12					

監督コメント（堺ブレイザーズ）

今日はお互いが良いバレーを展開し接戦となったが、勝ち切ることができてよかった。
大分三好は昨日に引き続き、非常にアグレッシブなサーブで大変素晴らしかった。
我々もレセプションで粘り、ブロックなど良いプレーを出すことができ、無事２連勝で終えることができた。
来週の試合も熱い応援、宜しくお願いします。

監督コメント（大分三好ヴァイセアドラー）

接戦に持ち込み、勝ち切りたかったが、第５セット中盤・終盤での連続失点があり、勝利する事ができず大変悔しい思いです。
その中でも新人の井口・山田がチームのリズムを作り、新しい力を作り出したことは大きな収穫となりました。
本日も応援ありがとうございました。

要約レポート

連日の勝利で勢いをつけたい堺ブレイザーズと、連敗を止めたい大分三好ヴァイセアドラーの一戦。
第１セット、堺はジョンが軸となり攻める中、大分三好は攻守に渡る丁寧なプレーや山田のブロックでペースをつかむ。中盤に入り、堺の高野による連続ブロックポイントを起点に追いつくが、終盤では大分三好がバグナスを勢いに乗せ、大分三好が25−23でセットを先取する。
第２セット、どちらも粘り続けるラリーが続くが、堺が鵜野のコースをついたアタック、ジョンのサービスエースから差をつける。最後はラリーを制し、勢いを落とさなかった堺が、25−20で取り返す。
第３セット、開始から前セットの勢いをそのままに、堺が高野、鵜野のアタックで序盤をリードする。堺は点差を保ったまま、松本や出来田の緩急をつけた速攻と、鵜野やジョンのサイドからの攻撃で、25−14の大差でセットを連取した。
第４セット、大分三好がバグナス、ストックトンのキレのある攻撃で点差をつくる。リードを保ったまま山田のノータッチエースで終盤の流れを掴み、ストックトン、バグナスが攻め切ることで、大分三好が25−21とし、セットを取る。
第５セット、どちらも気迫ある強気のプレーが続き会場を沸かせるスタートとなる。堺のリードでセットを折り返し、どちらも譲らない展開が続いたが、松本の速攻で中央を意識させつつ、サイドの鵜野とジョンを上手く使って攻めた堺が、15−12で勝利した。

※本票の著作権は、一般社団法人日本バレーボールリーグ機構に帰属します。